

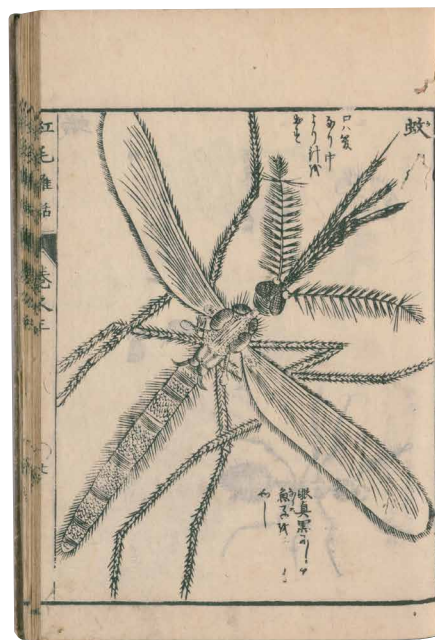
医療に大きく貢献した「顕微鏡」と「聴診器」



顕微鏡と聴診器は、それまで見えなかった物を見る、聞けなかった音を聞く機器として、医療の発展に大きな役割を果たしました。

顕微鏡は、江戸中期の1750年頃にオランダから輸入されました。最大200倍程度と低倍率でしたが、大名、医者、蘭学者らが虫や植物(薬草)などの観察に利用され、江戸後期には、鏡筒を竹やべっ甲で製作するなど日本独自の発展を遂げました。

聴診器は、江戸後期の1847年に輸入されました。木製で筒状の単純な構造でしたが、心臓、肺、胎児の心音など、人体内部のかすかな異常音も拾えるようになりました。

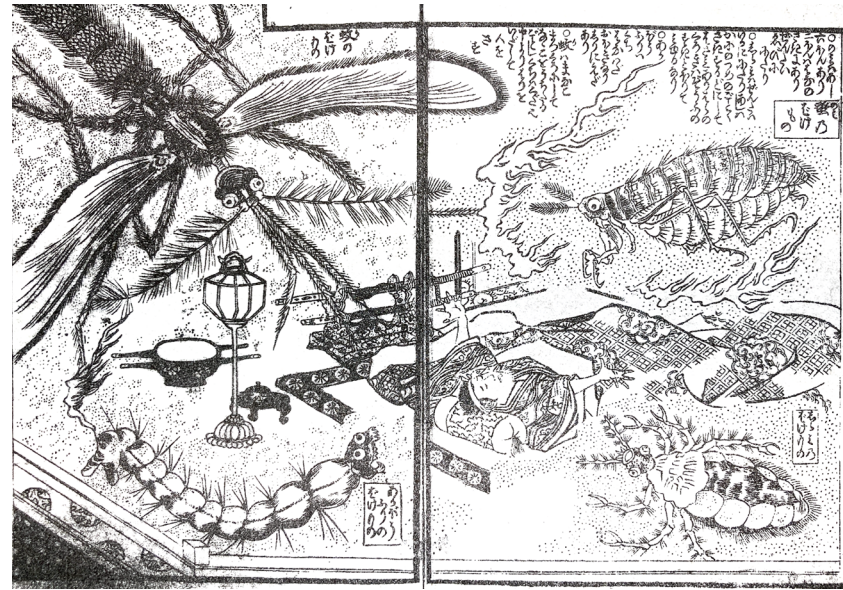


顕微鏡を使って虫をスケッチした例(「紅毛雑話」より)

まつと うめ たけ とり だん
「松梅竹取談」さんとうきょうでん・著 歌川国貞・画



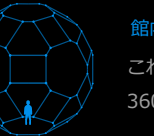
しゅげん じゃ かいげん
修験者「怪玄」が妖術で蚊やノミなどを妖怪
にさせ、刺す、かむなどして病床の判官を
苦しめる奇想天外な物語。
随所に「紅毛雑話」の顕微鏡で見た虫たちが
誇張され出てきます。



館内企画展アーカイブ

バーチャル展示室

THE VIRTUAL
EXHIBITION ROOM 360



館内企画展アーカイブ **バーチャル展示室360** > <https://www.tcmmit.org/360virtual/>

これまでにトヨタ産業技術記念館で開催した企画展をご紹介します。デジタルアーカイブです。

360度VRコンテンツで、臨場感溢れるバーチャル展示をお楽しみください。



トヨタ産業技術記念館

当サイトに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。

Copyright(C) Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology All rights reserved.